

1.7. 奥山 由布子氏（有限会社シロヤ 代表取締役社長）

「北九州市は、感動できるもの・心の琴線に触れるものがあるまち。」



奥山 由布子（おくやま ゆうこ）

1964年北九州市八幡西区生まれ。

2000年より父の後を引き継ぎ、(有)シロヤ代表取締役社長に就任。2023年現在に至る。

小唄 瓢派師範。

瓢千玉（ひさご せんぎょく）。

2009年より3代目家元の手ほどきをうける。

「シロヤと北九州市の歴史」

シロヤと北九州市の歴史を絡めながらお話しします。父が昭和25年に創業してから、73年になります。その当時、北九州市は製鉄所の隆盛もあり、福岡市よりも経済的に豊かでした。父は戦争に行き、ひもじい経験をしていました。戦後は食べ物少なく、“ギブミーチョコレート”に代表されるように、悲しい時代でした。父はこの経験を踏まえ、衣食住の中の“食”をどのように支え、幸せに貢献していくか、ということに挑戦しようと起業しました。その頃銀座では木村屋のあんパンが流行っていて、それをヒントにシロヤでは餡ではなく練乳を入れようとしたことがサニーパンの始まりです。

私は昭和39年に黒崎店ができた際に生まれました。高度経済成長期の頃は、当時製鉄所の祭りであった「起業祭」の影響力がすごかったのですが、そこにシロヤも出店したことで爆発的な人気となりました。

「北九州市民の持つ魅力」

北九州市民は人情深くおらかで、裏表がなく、頑固で一本気。松本清張氏に始まり、内村航平氏など、北九州市出身で活躍している人も多いです。北九州市の為に、もっと大きくなる、ということを書いてくれるアーティストの方

もいます。北九州市上下水道局によるカンボジア・プノンペンへの支援には感動しました。北九州市にゆかりのある中村哲氏のように魂の質が高く、信念があり、人の為に尽くす人が多いと感じています。

「ノスタルジックの上に新しい物語を」

且過市場が素晴らしいと評価されているのは、ノスタルジック・なつかしさが魅力なのだと思います。火災で一部が消失したときはとても心を痛めました。これらの歴史の上に新しい物語を作っていくことが必要でしょう。

その他の魅力として、特産物・ふぐ・ウニ・かしわ飯等、名物もたくさんありますが、福岡と一括りにされてしまうことが多いと感じています。北九州市には、名物を集約したような核となる、大きな施設が必要ではないでしょうか。

「若者の成長を応援したい」

北九州市内の大学生をはじめとして、若者・Z世代の話を聞く機会がありますが、SDGsに興味がある人が多いです。当社も紙ストロー導入やレジ袋削減等の取組を行っていますが、良い傾向ではないでしょうか。

小倉城竹あかりのイベントで、ボランティア

として参加している大学生と話をすることがありましたが、ほとんどの学生さんはボランティアで終わってしまうことがもったいないと感じています。彼らにはボランティアを通して仕事に結び付けてもらいたいですね。「集団」から「個」へということで、個人事業主になりたい子たちを市としても応援してほしいと思っています。

若者には人数が少ない分、突出してもらいたいです。若者の中から、優しく、心の美しい方に政治を担ってほしいとも思っています。

「高齢者にも活躍してほしい」

高齢者についても、元気な方が多いです。相見する方は年齢の高い方が多く、頭が固い方もいますが、彼ら自身がそれではダメだということを自覚しています。元気な高齢の方にはまだまだ活躍してもらいたいです。高齢者の強みは経験があることです。持っている経験を活かし、90歳からでも身体が元気であれば、もう一回事業を立ち上げることも可能ではないでしょうか。

「直接のコミュニケーションが大事」

SNS やオンライン会議などデジタルツールで事が済ませられる時代になってきていますが、直接のコミュニケーションは絶対に必要です。コロナ渦で感じたと思いますが、すべてオンラインでは心が殺伐としてしまいます。直接コミュニケーションを取り、ハートに響くものがないといけません。人との直接の触れ合いには温かさがあります。

小倉のまちはノスタルジックで懐かしく、未来の姿もそれに沿うようなものであるべきです。当社の小倉店の改装も、これまでの店舗の雰囲気を出しながらも新しいショーケースにしようとしています（現在は改装完了）。今度

創業祭を実施しますが（実施済）、その際も自身が出席し、お客様と直接のコミュニケーションを取ろうと思っています。

AI の活用にしても、人はふとロボットにも話しかけてしまうことがあるほど、人間力とはコミュニケーション力であると感じます。明るく元気に、その人と話していると楽しくなると感じられる人が北九州市には多くいてほしいですね。

「これからも住みやすいまちであり続けてほしい」

北九州市は住みやすいまちをつくらうとしていると感じています。全国の方からも北九州市は住みやすいという意見を聞きます。子育て支援や福祉が充実しており、シニアの転入先としても人気が高く、家賃が安いなどなど。政令指定都市として頑張っていると感じていますが、これは引き続きお願いしたいところです。人口は減ってきていますが、東京や関西、さらには外国からも移住してきてほしいと思っています。

北九州市から世界へという方向性には、共感していますので助け合っていきたいと考えています。

「感動・心の琴線に触れる（心を揺さぶる） ものに出会えるまち」

心の琴線に触れるものがなければ、人は機会があっても、なかなか訪れようとまではしません。

突き抜けたもの、パンチが効いているものは、理屈ではなく心に残るものです。何かわからないものが来ても拒まず、多様性を受け入れることが重要となってくるでしょう。

是非、オンリーワンのものがあるまちであってほしいです。